

施策評価表

京都市南丹市
作成日：平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

評価施策名	5 伝統文化を継承する	施策CD	25	施策主管部	教育委員会	部長名	東野 裕和
政策名	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る			施策関係部			

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
文化財登録数	件	148	148	147	148	148	150
文化博物館・郷土資料館の年間入場者数	人	7,763	8,000	6,907	8,100	8,300	12,000

○ 歴史文化遺産を市民共通の財産として保存、継承する。

1 南丹市の現状(課題)

○ 歴史文化遺産を様々な調査を経て文化財に指定するなどの措置を講じている。
○ 文化財は、保存と活用を併せて進める視点も、歴史文化の周知や観光振興の上で大切であり、次の世代に保存、継承しなければならない。
○ 国の登録文化財制度を活用した取り組みを本市でも進めている。
○ 文化博物館、郷土資料館などで文化財関係資料の展示・公開を行うとともに、児童生徒、市民や来訪者へ歴史文化を学ぶ機会を提供している。

(現状)
・文化博物館・郷土資料館の年間入場者数 7,763人(平成20年)

2 対策をしなければどうなるのか

○ 長い歴史の中で培われてきた文化の継承ができない。

3 それは何故おきたのか

○ 長い歴史の中で培われた多様な文化があり、次代に引き継がなければならない。
○ 市域には多くの指定文化財があり、それらの保護に必要な支援を行ってきた。
○ 伝統的建造物群保存地区のかやぶき民家群は、多くの観光客が訪れている。

4 それらを解決するために何をするのか

①歴史文化遺産を保存する。
・地域の歴史文化資料、伝統行事などの調査、収集
・国登録文化財制度の積極的な活用
・文化財の保護の推進
・歴史文化遺産の保存等の推進と支援の実施

②財産を愛護し、次代へ引き継げるよう意識の向上を図る。
・遺産に対する市民の理解の向上
・教育に関する啓発の推進
・歴史文化に詳しい市民の協力
・民俗文化継承に関する支援
・遺産の観光活用
・遺産周辺の環境整備及び案内機能の強化

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24	
決算額(計画額)	千円	43,182	34,167	40,287	60,104	60,104	
財源内訳	使用料・手数料	千円	0	8,055	7,532	1,497	1,497
	国・府支出金	千円	11,729	7,833	7,456	12,386	12,386
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	31,453	18,279	25,299	46,221	46,221
職員従事人数	人・年	7.41	11.21				
人件費	千円	33,880	41,741				
事業費総額	千円	77,062	75,908				

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 13 事業

単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
史誌編さん事業(八木町史編さん事業)	13,517	7,183	11,098
文化資料保全補助事業(文化資料保全補助事業)	4,340	3,820	1,942
重伝建地区保存修理補助事業(重伝建地区保存修理補助事業)	6,905	3,404	2,661

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】
①目標の達成状況
伝統文化を継承するためには文化財の保存とその継承、さらに活用も必要で、目標数値は定めにくい新たな登録も含め計画的・継続的な取り組みが必要。
博物館・資料館の入場者が目標を下回っており、市民の理解や意識の向上を図ることが必要。
②目標値や施策の考え方の見直し
歴史的資料の損壊・消滅の恐れに対しては早急な対応が急がれる。
博物館・資料館の目標値は入館数だけに留まらず、文化財を市民の財産として次代に引き継げるよう、啓発推進や歴史文化資料などの調査・収集などの目標も設定できないか。

【改善の方向性】
①今後の方向性
限られた期間や予算の中でより効率的な対応と文化財保護にかかる住民の理解と協力を深める。
②各事業の対応
過疎地域などでは祭礼などが後継者不足から消滅の危機に陥っている現状もあり、早急な調査も必要。

【今年度の評価】

【総合評価】
①目標の達成状況
文化財登録数、文化博物館・日吉町郷土資料館の入館者数は目標値を下回っている。これは、新型インフルエンザの流行が影響したと考えられる。
②目標値や施策の考え方の見直し
文化財の登録数は、南丹市の「名木」を追加するか文化財保護審議会で審議中である。
日吉町郷土資料館の入場者数は、レンタサイクル事業もカウントしており、今後このレンタサイクル事業の移行を考えている。

【改善の方向性】
①今後の方向性
CATVを活用し、南丹市内の文化財をシリーズ的に紹介して、市民に文化財保護の理解を深めてもらう。
②各事業の対応
旧町単位や小学校下単位で、小・中学生や地域住民等と地域の歴史の掘り起こしを協働でおこなう。
その調査結果を文化博物館等で展示し、広く広報・啓発していく。
(児童生徒の郷土愛が生まれる。また、成果品として報告書を市民と連携の下で作成していく。)

【評価を受けて取り組んだこと】

①文化博物館では夏季・秋季の企画展以外に、南丹工芸文化祭において幼児・児童・生徒の作品を展示した「南丹美術工芸展」、南丹市内の工芸家や伝統工芸大学の学生の作品を展示した「工芸品展示会」を博物館で開催した。
②調査研究では、歴代園部藩主であった小出氏の書籍「小出文庫」の調査をし、報告書を出版した。また、日吉町郷土資料館では資料の図面化を進めた。
③資料購入では、郷土出身の画家の作品収集に努めた。
④文化財関係では、市指定の樹木指定(天然記念物)の現地調査を実施した。また、文化財説明版の修正も行った。

【今後の方向性】
市民に、より理解と協力を求めることが出来るよう文化博物館等での展示会事業において、南丹市になじみの深い事業を行っていく。
調査活動は行政だけでなく、市民と共有したかたちで実施していく。
祭礼等は緊急度の高いものから調査し、展示会事業の中で保存し、継承については協働の立場で検討を重ねていく。